

## ～ 東日本大震災から2年 ～

### 3月に思うこと

理事長 矢代 博昭

本日は3月11日ですが、矢張り、東日本大震災で被害に遭われた方々への想いを新たにせざるを得ません。

本日の日経朝刊では、復興進捗度として鉄道89%、電気96%、水道46%に対し、堤防など海岸対策は着工ベースで26%と低く報道されておりますが、復興庁HPの発表の詳細を見ますと、国施工の海岸対策は着工ベースで86%、港湾は同じく96%となっております。

白砂青松とも歌われた海岸防災林の再生は、未だ途に付いたばかりです。

更地のままとなっている被災地を見るにつけ、復興が思うように進まない原因、事情は色々と有るようですが、全体での復旧が加速することを願わずにはられません。

微力ながらもSCOPEとして出来る限り復旧復興に協力し取組みたいと願う次第です。

### あれから2年

東日本震災復興支援室長 佐藤 孝夫

2年前の3月11日は、東北地方太平洋沖で巨大地震が発生し、それに続く巨大津波が東北・関東沿岸の町々を襲い、多くの人命を奪い、町の機能を壊滅させた日です。

巨大津波による被害も深刻でしたが、ここまで復興が遅れている最大の要因は、福島第1原発の問題です。目に見えない放射能が相手だけに、皆が手探りの状況で、当事者はそれぞれの持ち場で懸命に努力し続けていることは承知しており、致し方ないとは思いますが、いまだに、避難生活を余儀なくされている方が30万人もおられると聞きますと、沈痛な気分です。

当時の被災の実態、被災された住民の皆さんへの思いを忘れることなく、一刻も早い被災地の復興を願い、自分たちに今与えられた復興のための役割を、どんな形でもいいから続けていくことが大切だと思います。東北地方整備局、宮城県及び茨城県の現場で、多くのテクニカルエキスパートの方には、災害復旧工事に携わっていただいておりますが、なお一層のご尽力をお願いいたします。

巨大地震は、地球スケールの時間では、周期的に繰り返し発生しておりますが、何事も歴史の彼方に忘却してしまう人間スケールの時間で見ると「想定外」にしてしまい、自分達の想像力の欠如から、十分な対策に思いが至らず、年々、人的・物的被害を大きくしています。もう一度、自然に対して謙虚な姿勢を取り戻すことが大切です。

SCOPE は、震災復興支援室を25年度以降も存続させ、東北地方の港湾・海岸施設が完全に復旧し、力強い復興に繋がるまで、自分達に与えられた業務を誠実に遂行し、技術支援していくことが、犠牲になられた方々に対する我々の責務だと思います。

近い将来に東海・東南海・南海地震が危惧されています。例え現実化して、被害が発生した場合でも、いち早く被災地の復旧・復興支援が行えるよう、本部と支部が一丸となって支援できる体制整備を充実させていく所存ですので、職員一同のご協力をお願いいたします。